

『ASUKAモデル』と救命のパラダイムシフト

学校での突然死ゼロをめざして「すぐにやる！だれもがやる！みんなでやる！」

教育長在任中に起きた桐田明日香さんの事故を機に、「ご遺族とともに、学校現場での事故対応テキスト『ASUKAモデル』を作成し、救命教育の普及に尽力されている桐淵博氏。その活動をご紹介します。



●執筆者
桐淵 博
日本 AED 財団理事
前埼玉大学教育学部教授
元さいたま市教育委員会教育長
東京学芸大学B類数学科卒。中学校数学科教師、中学校長、さいたま市教育委員会教育長、埼玉大学教育学部教授を経て、同教育学部附属教育実践総合センター研究員、一般財団法人日本AED財団理事、日本臨床救急医学会学校へのBLS教育導入に関する検討委員会委員。

明日香さんの事故

さいたま市教育長在任中であつた2011年9月29日、市立小学校6年生の桐田明日香さんが1000メートル走のゴール後に倒れ、翌日亡くなりました。

倒れた直後に痙攣が見られましたが、周囲にいた複数の教員は「苦しうだが呼吸がある」「脈もある」と捉え、心肺蘇生（CPR）やAEDの装着を実施しませんでした。このことが大きな問題として指摘され、ここから私たちは実に多くのことを学んできました。わが国でAEDの市民使用が認められて7年が経過しており、教職員も一通り救命講習

を受講済みでした。それでも事故は起こったのです。

事故の教訓

事故後の検証委員会等の議論から、次の問題点が浮かび上がってきました。

1 緊急時の判断・対応能力の問題

まず、緊急時の判断・対応能力の問題があります。痙攣や死戦期呼吸が心停止の重大なサインであることや、そもそも死戦期呼吸そのものについて知らなかったこと。また、緊急時に非医療従事者が脈を取ることには誤認やCPRの遅れにつながる危険があり、すべき

2 学校の危機管理体制の問題

次に、学校の危機管理体制の問題です。各学校では、地震や火事の避難訓練は行っているが、「〇〇で子どもが意識を失って倒れた」という想定訓練は実施していませんでした。そのため、具体的な命令系統が確立せず、救命処置とともに症状の経過観察・記録や情報の共有等に欠落や混乱が生じました。また、養護教諭に対する依存心が強く、到着を待ち、後は任せるという態度が救命に必

要なチーム対応を阻害する要因となっていました。

3 教職員の危機意識の問題

さらに、教職員の危機意識の問題があげられます。教員は普段元気な子どもたちを見ており、突然目の前の子どもが死に直面する場面を想像しにくく、緊急事態を経験したり適切に研修を重ねたりした教員がいない場合、複数の目はかえって「正常性バイアス」を強化する危険があります。

背景にある問題

背景には社会全体の問題が考えられます。わが国では年間の心臓突然死が7万人に上り、交通事故で亡くなる方の20倍近くになることを、多くの人は知りません。

同様に、図の通り学校内での児童生徒死亡事故の死因の第1位が突然死であることを多くの教職員が知らず、また、実例を学んでいないため、その場での寸秒を争う対応の重要性が実感として徹底していないと感じます。教員養成課程で、養護教諭と保健体育科以外の学生がこうしたことを学んでいないことも大きく影響していると思います。ここから、「素人が手を出したら悪化させる」「救命講習はどこか他人事」という心理が生まれ、結果として「養護教諭や校長などを探す」「取りあえず担架で運ぼうとする」「すなわち救命処置の遅れが生じると考えます。

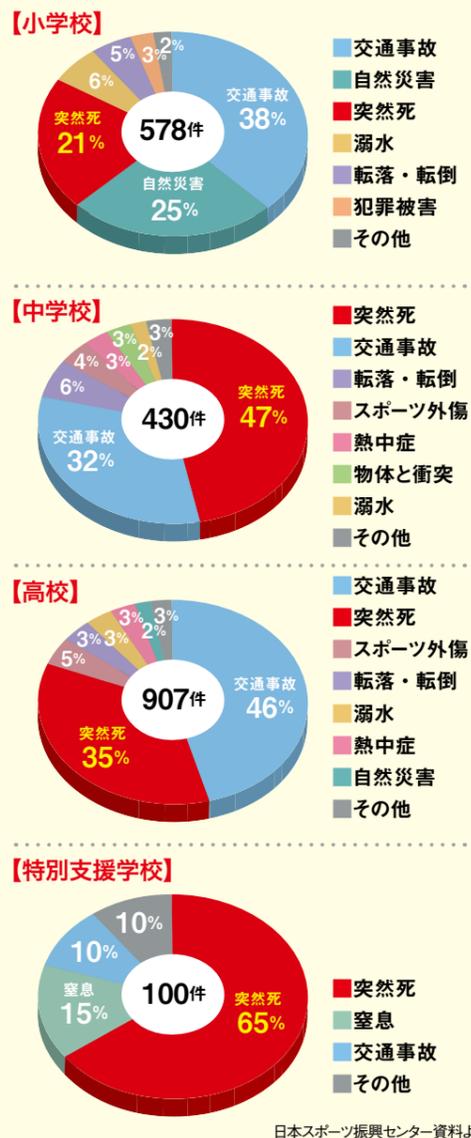
救命のパラダイムシフト

『体育活動時における事故対応テキスト—ASUKAモデル』は、「日常における重

大事故の未然防止」「体育活動時における重大事故の未然防止」「重大事故発生時における対応」「事故発生後の対応」の4つの柱からなっています。その手引も併せて、さいたま市のホームページで公開されており、ダウンロードも自由ができます。さらに、明日香さんのメッセージビデオも日本AED財団のホームページなどで視聴できます（下段）。

『ASUKAモデル』の示すものは「救命のパラダイムシフト」——すなわち、救命は「すぐにやる！だれもがやる！みんながやる！」という発想と、それに基づく危機管理体制の改革を訴えています。「見ていることが一番危険、できることをみんなで行おう」が当たり前。だからこそ、発達段階に応じた小学校からの救命教育が大切なのです。

図 学校管理下の死亡事故 (1999年度～2012年度の累計)



日本スポーツ振興センター資料より

明日香さんのお母様と私は、講演で各地を訪れます。最近「『ASUKAモデル』を学んで救命できた」という話をあちらこちらから聞くようになりました。明日香さんを救うことはできませんでしたが、明日香さんのおかげで救えた人は増えています。1980年代には年間1500件程度あった学校管理下の突然死は、近年30件以下にまで減ってきました。学校での突然死ゼロは夢ではないのです。

▶ 日本AED財団「減らせ突然死プロジェクト」命の記録MOVIE『ASUKAモデル』ホームページ aed-project.jp/movies/movie5.html



▶ さいたま市ホームページ『ASUKAモデル』 <https://www.city.saitama.jp/003/002/013>

